

みなさん、岩手の「教育振興運動」を知っていますか？

◇「教育振興運動」はこんな運動です！◇

- ◇ 教育振興運動は、学校、家庭、住民等が総ぐるみで、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む岩手県独自の教育運動です。
- ◇ 昭和40年に、県内各地で地域をあげて学力向上のための取り組み（読書運動など）を行ったのが始まりで、以来、本県の教育水準の向上、子どもの健全育成、家庭や地域の教育力向上など、岩手県の教育環境の整備充実に大きな役割を果たしています。

◇運動の特徴を教えてください！◇

- ◇ 子ども、親、教師（学校）、地域、行政の5者が、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して進める運動です。

【5者の目標・責任】

子ども	…	学習意欲を高める
親	…	家庭教育を充実させる
教師（学校）	…	学校教育を充実させる
地域	…	地域社会の教育環境を整える
行政	…	さまざまな教育条件を整備充実させる

- ◇ 地域が抱える子どもたちの教育課題を地域単位で人々が話し合い、運動の計画を立て、地域の特色を生かして自主的に解決しようとする実践的運動です。
- ◇ 子どもや親の自発的な取り組みに加え、多くの大人が子どもたちにかかわり、地域全体で子どもたちをはぐくもうとするところに特色があります。

◇社会の変化に伴って、運動内容も工夫されています◇

運動が始まった昭和40年代と現在とでは、社会経済や家庭生活の状況が大きく変化しています。運動内容は、その時々の子どもの置かれている状況や社会状況を反映して、工夫されてきました。

- ◇ 運動開始当時 … 主に、「学力向上」をめざし、家庭で勉強机や勉強部屋の確保や、読書の推進運動などに取り組みました。
- ◇ 昭和50～60年代 … 青少年の非行や校内暴力が多く起こったこともあり、あいさつ運動や美化運動、体力づくり運動なども取り入れ、「健全育成」や「健康安全」の分野にも広く取り組むようになりました。
- ◇ 現在 … 子どもたちに生涯学習の基礎を身につけさせるとともに、いわゆる「生きる力」をバランスよくはぐくむため、地域の特色を生かしたさまざまな体験活動などが取り入れられるなど、幅広い運動が行われています。

◇具体的にはどうやって運動を進めるの？◇

- ◇ 多くの市町村に運動推進のための協議会が設置され、さらに各実践地区ごとに目標を立て運動を進めています。実践地区は、小中学校や公民館、自治会など、各市町村の進めやすい単位で作られており、平成20年度現在、県全体で540地区あります。
- ◇ 各実践地区では、学校、家庭、地域を活動場所として、読書運動やあいさつ運動、花いっぱい運動、クリーン作戦のほか、自然体験活動、ボランティア活動、郷土芸能の伝承活動、世代間交流、スポーツ・文化活動、中高生の社会参加活動など、地域の特色を生かしたさまざまな活動に取り組んでいます。
- ◇ 運動の成果を年度ごとに各実践区でまとめるほか、市町村単位で運動の集約大会や実践区リーダーの研修会などを開催し、次年度以降の活動につなげる工夫をしています。

◇「教育振興運動」は岩手の大切な財産。 岩手県が全国に誇る「岩手らしさ」です◇

- ◇ H14年度から完全学校週5日制が始まりました。この制度の大きなねらいは、学校・家庭・地域社会がバランスよく協力し合い、子どもたちに学校では経験できない家庭や地域での体験等を通じ「生きる力」を身につけさせるところにあります。
- ◇ 今、全国の都道府県では、学校・家庭・地域社会が連携して子どもたちをはぐくむための運動を進めていますが、幸い岩手県には、「教育振興運動」で培った「地域全体が協力して子どもを育てる」という環境がすでに整っています。
- ◇ 県では、より多くの皆さんに教育振興運動への関心を持っていただき、参加していただくことで、「子どもは地域全体ではぐくむ」という気運を高め、21世紀の夢県土いわたを担う青少年を育成していきたいと考えています。
- ◇ 教育振興運動は、岩手が全国に誇れる21世紀型教育のモデルです。

◇「みんなで教振！10か年プロジェクト」◇

- ◇ 県では、これまでの運動の成果と課題を踏まえ、平成17年度から「みんなで教振！10か年プロジェクト」に取り組んでいます。これは、今行っている運動や活動、組織についての再点検を行うことを通して、「子どもは地域全体ではぐくむ」という気運を高め、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの育成を目指すものです。

- ◇ このプロジェクトは次の4つのステージで構成されています。
 - 「再構築の3年」（H17～19）・・・19年集約大会
 - 「実践の3年」（H20～22）・・・22年集約大会
 - 「定着と検証の2年」（H23・24）・・・24年集約大会
 - 「飛躍の2年」（H25・26）・・・26年集約大会
- ◇ 「実践の3年」の重点
 - ①モデルプログラムの周知
 - ②評価の充実
 - ③市町村（地域）と学校のネットワーク化
 - ④「全県共通課題」の展開（H21～23）

